

おいしい！  
の笑顔をつくる

# IMURAYA CSR REPORT 2016

井村屋グループ

# TOP MESSAGE

「Be prepared!」準備を整えて、

「強くて、しなやかで、魅力ある会社」を目指します。



代表取締役会長(CEO)  
浅田 剛夫

東日本大震災から5年を経過しましたが、復興への道半ばという状況の中で、本年4月には熊本地方を大きな地震が襲いました。被災者の皆さんには、心よりお見舞い申し上げます。

予測不能な自然災害、また多様なリスクに対して、事業継承のために常に「備える」ことの重要性を改めて強く認識いたしました。

私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変化し、まさに「油断」も「予断」も許されない状況が続きます。私たちはその変化のスピードに遅れることなく、課題を的確に捉えて具体的な対応策を講じる必要があります。

大きな社会問題へと発展した食品廃棄の問題についても、見過ごすことはできない重要な課題であると認識しております。「食」に携わる企業グループとして、廃棄ゼロを目指して、「ロス・ミス・ムダ」の削減をさらに徹底し、3Rのより良いサイクルの実現を目標として活動してまいります。

引き続き重要なテーマとしては、低炭素社会の実現、環境保全の問題が挙げられます。昨年はバイオマスボイラの導入による環境負荷低減の事例をレポートいたしましたが、今回のレポートにおいては、新冷凍設備（アイアイタワー）の建設によって期待される効果についても報告いたします。地球市民の一人として、「次の世代から預かっている環境を汚すことなく、次の世代に返したい」の基本意識を徹底し、この課題にも正面から向き合ってまいります。

2016年5月に開催された伊勢志摩サミットも無事に終了し、伊勢神宮のある地において世界経済の安定、平和と安寧を確認する有意義な議論が交わされました。この地域に本社を置く当グループも、「あづきをAZUKIに！」をスローガンとし、世界に向けて「和菓子」の健康性、おいしさに関する情報発信に努めてまいりました。これからも井村屋グループは世界中で「おいしい！」の笑顔をつくる」というミッションを実現させるための企業活動を継続してまいります。

私たち井村屋グループは2017年に、創業120年・会社設立70周年・ホールディングス制へ移行して7年目を迎えていただきます。すべてのステークホルダーの皆さんに支えられてきたことに感謝の気持ちを強くするとともに、「不易流行」を掲げ、未来に向けてゴーイングコンサーンを目指す企業グループとしてご支持していただけるよう、さらに経営品質を向上させ、「食のダイバーシティ企業」に向かいます。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役社長(COO)  
大西 安樹

私たちを取り巻く気象変動、自然災害、食糧・エネルギー問題、弱者の人権侵害など多様な社会的課題に対して井村屋グループがステークホルダーと共に社会的責任を共有し、果たすべき役割を検討、実行した結果を報告させていただきます。

## 市場活動

伊勢志摩サミットの応援事業として、地元食材を使用した商品を発売しました。（→P21-22の特集でご紹介）。そして、社会的な課題となってきている高齢者の低栄養問題に対し、高齢者向けの介護・栄養食品として、カロリーを従来品の2倍に増やし、三重県産の大豆を使用した「高カロリー豆腐」を発売しました。農林水産省の補助事業として、三重県内の产学連携で協議をし、地元の医療機関・福祉施設のご協力のもと開発した商品づくりを報告させていただきます。

## 人間尊重

2015年4月より新人事・賃金制度を運用し1年が経過しました。その目的の定着に向けて社員の力量アップを進めてまいります。女性の活躍推進を子育て支援や環境整備、教育訓練でサポートしました。海外も含めた全従業員が活き活きと社会を意識して仕事に従事することがステークホルダーの期待に応えるスタートと捉えています。

## 社会との調和

地域社会とのコミュニケーションとして工場を開放して、私たちの活動の理解を深めていただくことを目的とした毎年開催をしているお客様感謝デーは、20回目を開催することができました。同様に津市の小学3年生の社会科の副教材における工場見学も約500名の子供たちに来ていただきました。生産過程において出る商品に使用できない「あづき」を使用し、みえ長寿津連絡会の皆さんの協力で作っていただいたお手玉は、津市の小学校の教材に活用していただいている。

## 環境保全活動

間伐材や木質チップを燃料としたバイオマスボイラは稼働から1年を経過しCO<sub>2</sub>の削減に貢献しました。2016年6月より稼働いたします冷凍庫「アイアイタワー」は環境影響を低減させる冷凍機を導入し、エネルギーコストの低減も図ります。環境目標への取り組みは満足できる内容ではありませんが、とどまるところなくスパイラルアップをさせながら進めます。

中期3ヵ年計画の3年目は会社創業120年、会社設立70周年の記念すべき年度となります。本年はそのエポックイヤーに向け、更にその後の飛躍に向けた準備の年として位置づけ活動を進めています。井村屋グループが企業活動を通じてどの様に社会に貢献できるかを常に意識をして取り組んでまいります。

今後とも皆様からのより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

## 井村屋グループ理念

井村屋グループは、各社・各部門そして私たち一人ひとりの活動の原点であり、精神的支柱となるグループ理念を定めています。

### Mission

社会的使命

おいしい！の笑顔をつくる

グローバルな視点に立って「和と自然」の味を生かし、安全で安心できる楽しい商品・サービスを提供し、お客様の食生活においしい！の笑顔の輪を広げ続けましょう。

### Vision

ミッションを果たす道程

Be always for Customers!

社員一人ひとりが、いつもお客様の立場に立って、いつもお客様のことを意識し、行動しましょう。このことで「顧客創造」「顧客満足提供」「顧客感動提供」企業になります。

### Passion

情熱、心意気、行動

イノベーション(革新)

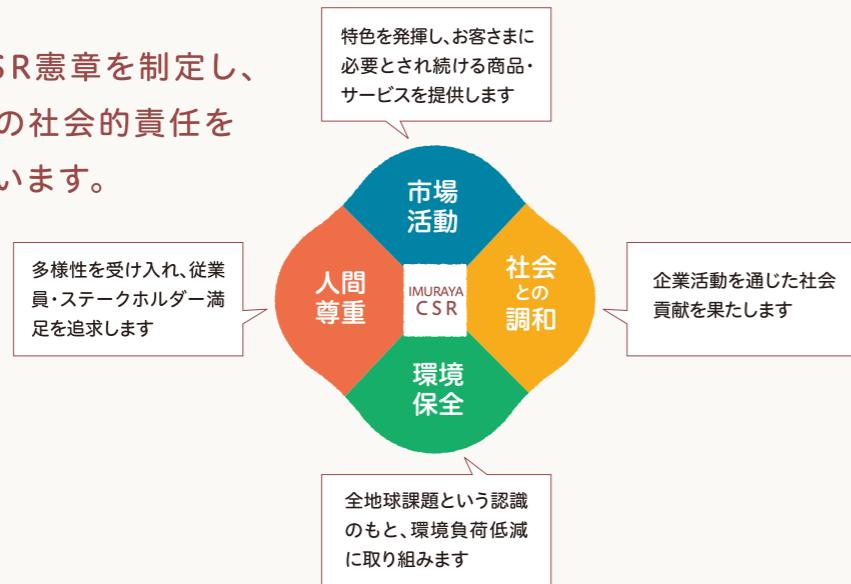
パッショングの原点はイノベーション(革新)の発揮です。あなたの「変える」が企業を成長させます。

## INDEX

トップメッセージ	01
井村屋グループのCSR	03
市場活動	05
人間尊重	07
社会との調和	11
環境保全活動	15
特集 伊勢志摩サミット	21
井村屋グループの成長戦略	23
井村屋グループの概要	24
第三者意見	25

## 井村屋グループCSR憲章

井村屋グループはCSR憲章を制定し、4つの側面から企業の社会的責任を果たす活動を行っています。



## CSRレポートの発行にあたって

## ◆編集方針

井村屋グループでは、「おいしい!の笑顔をつくる」をミッションとし、お客さまに満足と感動を提供できる企業であり続けたいと念願しております。その前提として2011年に制定された「井村屋グループCSR憲章」に掲げております4つの側面(市場活動・人間尊重・社会との調和・環境保全)に沿って、2015年度の活動を振り返り、これからのお題認識につなげる誌面構成としております。

井村屋グループCSRレポート2016では、具体的に以下の要素を盛り込みレポートしています。

井村屋グループ理念とグループCSRの考え方について冒頭(P1~3)に、新社長のトップメッセージも交えてお伝えしております。以降のページ(P5~20)では、CSR憲章に掲げる4つの側面からグループの活動をレビューする構成としました。

## 井村屋グループCSR行動指針

一人ひとりの行動が、品質を支える。  
常に行動指針に立ち返り、業務に取り組んでいます。

**1 法令遵守**  
その行動は、法令に違反していませんか。

**5 人権尊重**  
その行動は、周りの人がどう思いますか。

**2 企業理念**  
その行動は、企業理念や経営方針に準じていますか。

**6 環境保全**  
その行動は、環境や社会に負荷を与えていませんか。

**3 社会常識**  
その行動は、社会で通用しますか。

**7 自分自身の統制**  
その行動は、間違いないですか。  
もう一度確認を。

**4 顧客満足**  
その行動は、お客さまに役立っていますか。

皆様から永く愛される企業であり続けるために、日頃から一人ひとりがこれら7つの行動指針を意識して活動してまいります。

特集ページ(P21~22)においては、2016年5月に開催された、伊勢志摩サミットに関連した当グループの取り組み、「あづきをAZUKIに!」のスローガンに込めたメッセージをお伝えします。

中期3ヵ年計画「One imuraya」の初年度を終えた概況報告と、2017年最終年度を展望する内容となっております。

## ◆本誌の発行

井村屋グループの活動状況や企業姿勢をより多くの方々にご理解いただくこと、またすべてのステークホルダーに適切な情報を提供することを目的としております。2009年に環境報告書としてスタートしましたが、2012年に現在のCSRレポートという形に変更し、今回が5回目の発行となります。

## ◆レポート対象組織

井村屋グループ全社

## ◆報告対象期間

2015年度(2015年4月1日~2016年3月31日:当社事業年度)が対象となります。一部、この期間外の活動についても報告しています。

## ◆発行日

今回発行2016年6月(次回発行予定2017年6月)



社会から発展を望まれる  
企業を目指して

# 市場活動

井村屋グループ理念では、社会的使命を「おいしい！の笑顔をつくる」と定めています。そのミッションを果たしていく中で、企業の社会的責任として、さまざまな社会的課題解決に向けて取り組みを進めています。今回は代表的事例として「高齢化社会」「品質」のテーマに沿ってご紹介させていただきます。

## 高齢化社会への対応～高齢者の低栄養改善に貢献する商品づくり～

### 社会的課題の認識と井村屋グループの取り組み

高齢化社会は着実に進んでおり、今や4人に1人が65歳以上の高齢者であるといわれています。現在、社会的課題とされていることは、高齢者をはじめ、がんや胃腸疾患などの治療・手術後の方や呼吸器系患者の多くが低栄養状態にあるということです。特に高齢者の低栄養は問題となっており、65歳以上で約17%が、さらに在宅療養高齢者では約70%が該当すると言われています。

#### 取り組み



そんな社会的課題を背景に、井村屋では得意とする「和」「豆」を活用し、豆腐に機能（カロリー）を付加した「高カロリー豆腐」を発売しました。

高カロリー豆腐を通常の食事に加えて毎日摂取することで、摂取前と比較してQOLの向上が認められました。また体重・筋肉量や血清アルブミン値も増加していることが確認されています。

#### 〈QOLとは？〉

QUALITY OF LIFEの略で、日本語で「生活の質」を意味します。健康でいきいきとした生活を送るために、高齢者のQOLが注目されています。

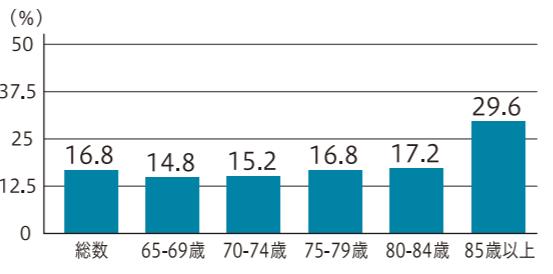
#### ① アレンジレシピ

食事量が減少している高齢者に、おいしく「高カロリー豆腐」を召し上がっていただきたいという目的で、料理研究家であるかわごえ直子先生に監修していただき、「高カロリー豆腐」のアレンジレシピを作成しました。麻婆豆腐、豆腐ハンバーグなど「高カロリー豆腐」のおいしさを引き立てるレシピが多数揃っています。

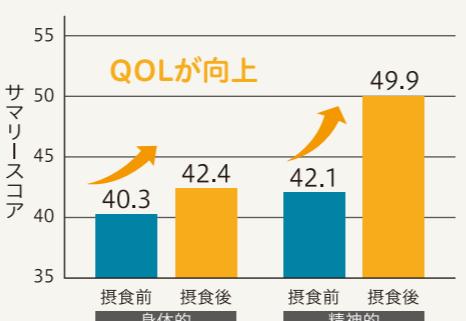
#### ② メディケアーズ展に出演

「高カロリー豆腐」をお客さまに広く知っていただくこと、また実際においしさを体験していただくことを目的に、今回メディケアーズ展に出演しました。介護食の中には、豆腐状のデザートはありますが、井村屋のような本物の豆腐をベースにしたものではなく、多くのお客さまから「おいしい」という評価をいただきました。当日は介護関係者、管理栄養士の方が多く、サンプル依頼をいただくなど、今後の販売につながる嬉しい声もありました。初めて見た方、聞いたことがあるけれど初めて食べる方に、「高カロリー豆腐」のおいしさを実感していただけたと思います。

#### ● 65歳以上の高齢者における低栄養傾向者の割合 (%)



#### ● 高カロリー豆腐を用いた臨床実験の結果



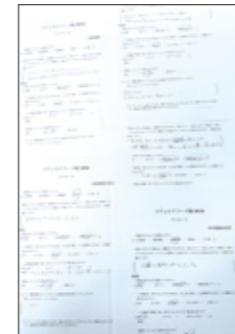
○対象：伊賀市立上野総合市民病院に通院する在宅の高齢者  
○試験期間：2014年11月～2015年6月



メディケアーズ展の様子

### 活動評価

メディケアーズ展では、試食とアンケートを実施し、58人から回答にご協力いただきました。内容量、おいしさ、食感について好評をいただきました。また、今回の「高カロリー豆腐」は伊賀市立上野総合市民病院、ヤナセメディケアグループ（医療法人碧会・社会福祉法人寿泉会）に実証実験の協力をいただきました。被験者から多くのご意見やアドバイスをいただくことで、商品の改善や今後の商品作りに活用できると考えます。



ご回答いただいたアンケート

### 今後の取り組み

#### ①高カロリーデザートの開発

農林水産省補助事業（地場産原料を活用した介護食品の開発）を利用し、商品開発を行っています。試作品を作成し、伊賀市立上野総合市民病院、ヤナセメディケアグループ（医療法人碧会・社会福祉法人寿泉会）のご協力のもと、高齢者施設の居住者を中心に関心介入試験を実施しました。この結果を参考に、今後の商品開発を進めています。

#### ②ユニバーサルデザインに向けての取り組み

商品パッケージの開封性、文字の明瞭性をより向上させ、お客様の声やニーズに応えていきます。

## 安全・安心な食品を届ける使命 ～井村屋グループの品質管理体制強化に向けた取り組み～

### 社会的課題の認識と井村屋グループの取り組み

「安全・安心」は、今や当たり前の時代ではなくなりつつあります。2015年度は異物混入・食品横流し事件・食品偽装等からお客様の食品に対する不安は高まっています。この社会的課題に対して、井村屋グループでは、食の安全性、信頼性を高める目的でFSSC22000認証を取得しました。認証取得後は井村屋グループ理念でもある「おいしい！の笑顔をつくる」ためにも、より一層の品質向上を目指しています。



認証取得に向けた研修

#### 〈FSSC22000とは〉

食品安全マネジメントシステムの国際規格であるISO22000を一步進めて、食品の製造上のリスク管理をより具体的にしたもの。

お客様に、より安全で安心な商品を食べていただけるための管理方法で、食の安全を損なう外部からの要因の排除等も含まれます。また、国際的に統一されている規格のため、グローバルな展開など新市場への販路拡大も進めていくことが可能になります。



FSSC22000審査登録証

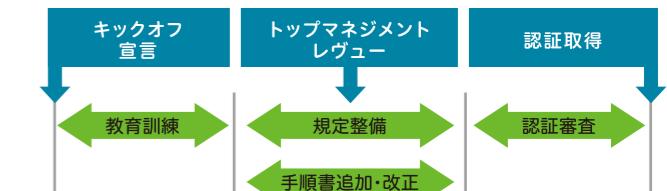
#### 工場長コメント

井村屋株式会社 生産本部  
菓子・食品・デザート工場 工場長 別保 和義



工場内の設備・環境の見直しを社員全員で取り組んだ結果、安全な状態を維持できるようになってきました。今後はさらに、予防の観点からPDCAサイクルを回し続けることによりFSSCを各工場の共通の物差しとして定着させていきます。そして、お客様に安心して食べていただける商品をお届けしていきます。

#### ● FSSC22000取得までの流れ



取得した日：  
各工場

○本社津工場 2015年10月26日  
○松阪NEWようかん工場 2015年12月6日  
○岐阜工場 2016年2月28日

### 海外の取り組み

#### ● 海外事業会社認証取得一覧

ISO22000認証（食品安全マネジメントシステム）

2009年	北京京日井村屋食品有限公司
2011年	井村屋（北京）食品有限公司
2015年	井村屋（大連）食品有限公司

HACCP認証

2014年 IMURAYA USA, INC.



従業員が自主性と能力を發揮できる  
職場を目指して

# 人間尊重

従業員一人ひとりの個性を尊重しながら、ワークライフバランスの実現とともに、それぞれがプロフェッショナルとして活躍できる仕組み・制度づくりに努め、「明日もいきたくなる会社」を目指します。

## 新人事・賃金制度の運用スタート!

### 新人事・賃金制度の目指す方向

「One imuraya」のスローガンのもと、社員の能力向上を図り、多様な働き方に柔軟に対応する「厳しさ」と「温かさ」を併せ持つ制度へ改革しました。

NEW

#### 取り組み

① 「役割区分」を軸とした制度にし、3つの職群コースを撤廃

② 人事評価の明確化

○評価項目・評価基準を再設定し、等級の人事考課表の基準・着眼点などに照らしてA～Eの5段階評価を実施。

○管理職以上には考課者研修を実施し、人事考課のエラーを防ぐ。

③ 360度考課(多面評価)の導入 ※管理職以上

○人事考課により気づきの機会とし、管理職育成教育に活用。

#### 従業員の声

井村屋グループ株式会社  
財務部 課長代理 佐野 高史

今回初めて、他人の評価を知ることができ、これまで自分が常々考えていた強みと思っていたことが、実は、他人からは評価されていないこともあるという事実に気付かされました。これは自己評価が、単純に自分のなりたい姿に留まっている内容もあったということになります。次回には、この評価を自分の本当の強みとして、「評判」をいただけるように、繋げていければ感じています。



NEXT

#### 次年度への課題

- 制度の目的・意義の理解、浸透を推進。  
個人の努力と成果が相対的に評価されることの理解。
- 制度に対する社員の評価確認とそれに対するフォロー。
- 人事考課システムの運用開始にあたり運用フォロー、実施方法の見直し。

## 井村屋 グループ 人事理念

経営理念や経営目標を実現するため、人事の基本方針および求める人材像について、「井村屋グループ人事理念」として定めています。会社設立以来、「人こそ我が宝」を信条に「人材の人財化」を経営目標に掲げ、人事制度や教育研修、人事考課、行動規範等に反映させて実践しています。特に「人材の人財化」については、トップマネジメントからも具体的な社員像や期待される人材の姿が適時示されています。

### 基本理念

「厳しく」も「あたたかく」  
期待を上回ることに  
努力する人を大切にします。

### 研修制度

井村屋グループではさまざまな研修制度で社員一人ひとりの成長をサポートしています。例年実施する新人教育の他、2014年度に引き続き、生産部門在籍社員対象の研修も行い、生産現場の改善推進を図っています。また、人事・賃金制度の変更に伴い、制度を正しく運営して社員のモチベーションアップと育成を図れるよう、「考課者研修」を国内外会社すべての管理職を対象に実施しました。

#### ●教育制度(2015年度実績)

機能別研修		新人教育	
工程改善推進者育成研修	メンター フォローアップ研修	新入社員研修	2年目 フォローアップ研修
役員研修 (2014年度から継続)	考課者研修	新入社員 フォローアップ研修	メンター制度
通信教育		社内勉強会	
人事制度内 通信教育	自己啓発 通信教育	アイアイ塾	ISO勉強会

#### ●過去3年間研修実績

	2013年度	2014年度	2015年度
各種研修受講者	245名	426名	478名
社内勉強会参加者	3,253名/44回	2,660名/39回	3,252名/31回
通信教育受講者	297名	312名	597名

### 安全な職場環境づくり

2012年度より労働災害撲滅に向け、工場従業員を中心に労働安全の集合教育を実施してきました。労働安全衛生推進者には、職場に潜む危険を見つけることにより労働災害リスクを下げ、工程責任者へは安全推進力向上のための教育を実施し、現場力を強化してきました。2015年度はライン責任者を中心に危険感受性を高める研修を実施し、労働災害撲滅に向け活動を行いました。職場ごとで労働安全の先取り活動として、リスクアセスメントの継続を行い、労働災害ゼロの達成に向けて全員参加で活動を行っています。

#### ●労働安全集合研修実績

2012年度	リスクアセスメント研修	25名
2013年度	リスクアセスメント研修	20名
2014年度	職長研修	30名
2015年度	K Y T (危険予知訓練)実務者研修	18名

#### ●研修の成果

##### ～工程改善推進者育成研修～

<目的> 各工程の改善推進者を育成する

<研修内容>

- 1日目: 5Sの推進・定着で改善の本質を構築
- 2日目: 5S推進による品質改善、安全の見える化
- 3日目: 作業分析・時間分析、5Sの実施でムダを見る化

##### ～成果の一例～

###### ◆研修実施前

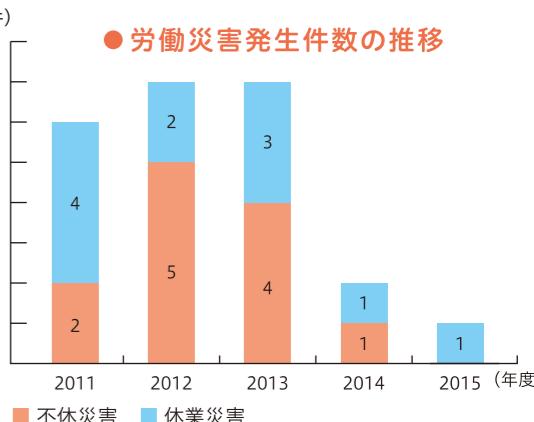


包装資材置き場としてスペースを利用

###### ◆研修実施後

使用頻度の少ないものなどを収納する物置として利用しているスペース  
研修日ごとに課題を設定し、改善を行う形で進められ、知識の向上と職場改善が同時にされました。

研修日ごとに課題を設定し、改善を行う形で進められ、知識の向上と職場改善が同時にされました。



###### 今後の取り組み

今後も階層別の労働安全教育を実施することで、安全な職場環境づくりを継続していきます。

### 人事方針

#### 成長する機会の提供

自ら成長し、発展し続けようとする社員一人ひとりのキャリア開発、専門性の向上、さらに社会人としての自律性を養う環境の整備と学習する機会を提供します。

#### 透明性のある人事マネジメント

会社の目標、方針を示し、一人ひとりが仕事の価値を高めるよう期待される能力、役割を明確にした人事制度、評価システムを公開します。

#### 公正な評価と処遇

能力と仕事の成果について公正に評価し、経営目標の実現に努力し、貢献した人には公正に処遇します。

### 期待される人材像

「甘えない・逃げない・他人事にしない」人材

グループ意識 常にグループ意識を持ち、全体最適を考える人

グローバル化 グローバルな視点で自らを磨き、活動できる人

プロフェッショナル 高い技術とプロ意識を持つ人

自己変革 自らが学び、考え、創意工夫と革新に挑戦する人

自己責任 お客様や社内から信頼され、人間的に魅力のある人

## ワークライフバランスの実現を目指して

### エルダー社員制度(再雇用制度)

昨今の社会情勢・労働市場の変化にともない、高年齢者雇用安定法に則り、60歳で定年を迎えた従業員本人が希望した場合、1年間の有期契約で最長65歳まで再雇用する制度を導入しています。従業員一人ひとりの働き方の選択肢を広げるため、基本的には希望者全員を再雇用できる制度としています。さらに、上級管理者(部長職以上)の再雇用対象者のうち、高い貢献が期待できる人はシニア社員とし、社員のやる気やモチベーションのアップを図っています。再雇用者は、長年培ってきた技術・経験を活かし、さまざまな場で活躍しています。

エルダー社員	エルダーパートナー	シニア社員 (主幹社員)
社員	社員／臨時従業員	上級管理職の社員



### 女性の活躍推進

2015年度より女性の管理職への登用を難しくさせる要因の一つであった3つの職群コースを廃止し、役割区分を軸とした制度にしました。

今後も多様性を認め、育成と行動変革を促しながら、「がんばった人」がより輝けるよう従業員をサポートし、職域の拡大を図っていきます。

そして男性も女性も区別なく、実力をつけるために切磋琢磨する風土が必要と考えています。女性の活躍支援をするには、経営者の支援、会社の制度面、期待に応える力の3方向が不可欠と考えて、後押しする仕組みづくりを進めており、女性管理職が年々増えるなど、着実に成果が出てきています。

NEW

### 社外取締役就任

名倉 真知子(公認会計士)  
西岡 慶子(株式会社光機械製作所 代表取締役社長)

社会・経済情勢の変化の潮流を受け、2015年6月19日の株主総会で2名の社外取締役が就任しました。外部からの目で独立性と透明性を高めるとともに、斬新な視点で経営に参画し、「積極的ガバナンスの構築」をしています。

これからの課題

今までの取り組みの成果に対して表彰をいただくなど社外から注目も高まっておりますが、まだまだ道半ばです。人事制度の整備を行って、やっと全社員が同じスタートラインに立てました。次は社員の意識醸成が必要です。従業員が働きやすい環境をつくり、一人ひとりがプロフェッショナルとして能力を十分に発揮できるようにするために次の行動計画に沿って活動します。

#### ●女性活躍推進行動計画(2016年4月～2018年3月)

①有給休暇取得率50%以上を目指す。②残業時間5%以上の削減を目指す。③女性従業員を対象とする研修または勉強会を実施する。

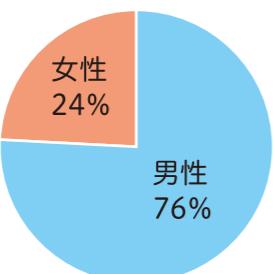
### エルダー社員の声

日本フード株式会社  
生産部 平松 繁朗

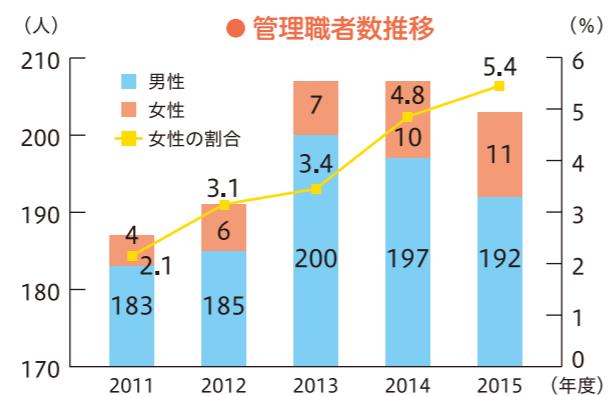
定年後も継続して働くことを検討する中、再雇用制度の利用は給料面での優位性、有給休暇など労働条件が良いこと、また今までの経験やスキルを活かして仕事をしたいと思いつい、継続雇用を希望しました。エルダー社員となってからは、生産の現場できちんと技術を身につけ、向上させていくことにやりがいを感じています。今後も会社の発展に貢献していきたいと思います。



### ●社員男女比 (2015年3月)



### ●管理職者数推移

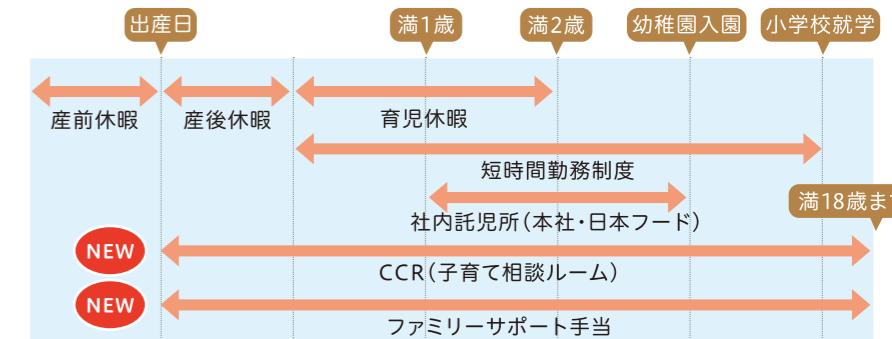


### ●経営者支援

- ・メンター制度を導入し、ロールモデルを育成など
- 制度
  - ・子育て支援の取り組み
  - ・ファミリーサポート手当など
- ソフト面
  - ・女性管理職研修「A塾 なでしこ研修」
  - ・CCR(チャイルドコンタクトルーム開設)など

### 子育て支援

働きやすい職場環境を整備し、仕事と子育ての両立を目指す従業員を積極的に支援しています。



### ●育児休暇取得者数と復職率



女性の「活用」ではなく「活躍」を重視し、働きやすい職場へと制度面、環境面の整備に努めています。

育児休暇中は会社からの定期的な情報の発信や能力向上のための通信教育受講を認め、復職後は短時間勤務制度や社内託児所「アイアイキッズルーム」(本社)の利用など支援を行っています。このような働きやすい職場環境づくりに対して社外から評価をいただくことで、女性活躍のモデル企業としてのイメージ定着→制度を利用する従業員の増加→同僚の理解や協力となり、従業員の意識醸成につながっています。

アイアイキッズルーム 検索

これからの課題

子育て世代の従業員のニーズに即した支援が行えるよう、復職者や利用者と積極的な対話を行いつつ、制度や環境をプラスアップしてまいります。そして、仕事と子育ての両立を目指す従業員をロールモデルとし、若い世代がキャリア形成や生活モデルを描く手助けに努めます。

### ●2016年度の活動予定：復職への不安を軽減するため、育休中の従業員に対し2ヵ月に1度、社内で情報交換会の場を提供。

### 遊・休・健・美休暇

井村屋グループには、遊(遊ぶ)、休(体を休める)、健(健康に、元気になる)、美(美味しいものを食べる)という意味が込められ、生き生きと仕事に取り組める環境に繋げることを目的とした「遊・休・健・美休暇」という制度があります。

### 社員の声

私はとてもアクティブな性格なので、よくさまざまな場所へ旅行や買い物に出掛けたりして休日を楽しんでいます。高校時代は話題のグルメやスイーツを求め、賑やかな東京に行くことが多くありました。社会人になってからは、自然や四季の良さを感じられるような観光名所をのんびり巡ることも好きになりました。最近では、友人達と広島県の宮島で食べ歩きし、尾道をドライブしたり、京都で着物を着ながら町を散策したり、ライトアップされた清水寺の夜桜を満喫しました。美しい景色を見たり、その地の名物を楽しむことで、日頃の疲れを癒す事が出来ました。充実したプライベートを過ごすことで、心身ともにリフレッシュ出来、仕事への意欲・集中力も高まっていると感じています。

井村屋シーズニング株式会社  
管理部 加藤 凜



これからの課題

2015年度は休暇日数と定めた5日間を取得した方は、全体の約5割に留まりました。業務の効率化や生産性の向上に取り組むとともに、取得率が低い所属に対しては所属長にヒアリングを行い、休暇を利用しやすい環境づくりに努めています。



地域、社会との強い連携と調和による  
企業活動を通じた社会貢献を実現します

# 社会との調和

井村屋グループでは、CSR憲章のひとつに「社会との調和」を掲げており、社会に対して、意義のある支援、賛助、寄付活動を通じて貢献します。近隣住民の皆さんに対しましては、ご迷惑をおかけしないこと、そして井村屋グループを知りたい方々に喜んでいただける取り組みを行い、企業市民としての責任を果たします。

## “あずき”的手玉で世代を超えた笑顔の交流と生きがいづくり

### みえ長寿津連絡会との取り組み

#### （みえ長寿津連絡会とは）

「明るい高齢社会推進の中核的な役割を担う」の理念のもと、さまざまな活動に取り組まれているボランティア団体です。

#### （2015年度の活動結果について）

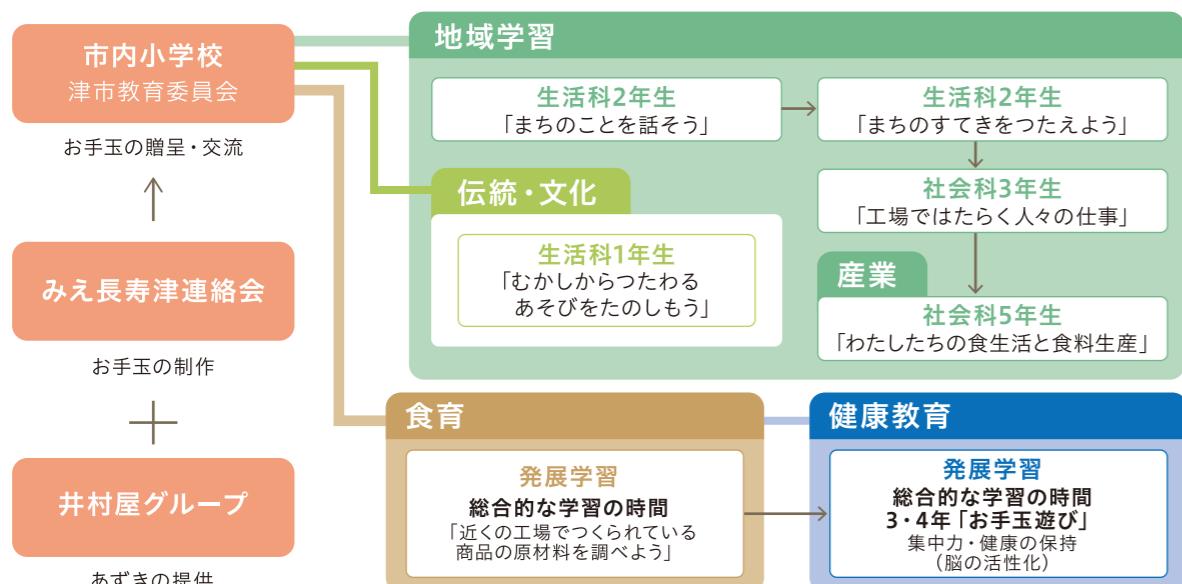
みえ長寿津連絡会の皆さま、井村屋の製品の原料として使えなかつたあずきを使って、お手玉を作っていました。この活動は2015年2月3日に始まり、2016年3月11日までの間であずき340kgを提供いたしました。あずきは、1個あたり50gで約6,800個のお手玉を作っていました。お手玉は、津市内の幼稚園や老人ホームへの寄付、みえこどもの城主催のイベント“むかしあそびっておもしろい”出展でご活用いただいております。

#### 津市役所の市長室での、 お手玉贈呈式の模様



左から石川教育長、前葉市長、  
山田みえ長寿津連絡会長、  
大西井村屋グループ常務取締役（現社長）

### みえ長寿津連絡会との連携による「津市子ども地域学習」 ～あずきでつながる「人」と「人」～



#### （2016年度の活動計画について）

2015年度の取り組みについて津市に共感いただき、2016年度より津市内で小学校1年生の教材としてお手玉を活用していただけることが決まりました。具体的には、生活科の授業に役立てるほか、食材としてあずきを学習（食育）し、お手玉遊びを通じて脳の活性化に役立てる（健康教育）など「津市子ども地域学習」の一環として計画されています。



津市教育委員会  
教育長 石川 博之様

2016年3月15日に井村屋株式会社様とみえ長寿津連絡会様から津市小学校児童の教材として「お手玉」3,000個を贈呈していただきました。

「お手玉」などの昔遊びは、伝統や文化の素晴しさを感じさせるだけでなく、作っていた高齢者の方々の思いに触れ、地域の人々とのつながりの大切さや、「お手玉」に使用されている「あずき」を教材に取り上げることで、地域産業の学習や食教育など発展的な学習につなげることができます。今後も子どもたちの知的好奇心を高め、人と人のふれあいを通して豊かな心を育む教育を進めるためのご支援をよろしくお願いいたします。



みえ長寿津連絡会  
会長 山田 千秋様

お手玉を通じて、お手玉を作る喜びと生きがい、そして作ったお手玉を高齢者の認知症予防に、またお子さんには「むかし遊び」の楽しさを、教育委員会を通じて小学校低学年に食育、健康教育、地域学習、伝統文化を学ぶ教材として活用していただき、私たちは喜びと生きがいを感じております。この活動は、今後も地道に継続して進めていきたいと思います。

### 松阪市社会福祉協議会（略：松阪社協）との取り組み

#### （2015年度の活動結果について）

松阪市内の松阪社協管轄の下記の障害者就労支援施設B型4カ所を対象にお手玉作り交流会を開催しました。

- 10月21日 飯高夢風船
- 11月18日 嬉野ゆうゆう
- 12月16日 飯高じゃんぶ
- 1月20日 サン・ウイングスみくも

施設利用者、施設スタッフ、社協スタッフ、井村屋スタッフ合計約120名が参加しました。お手玉を作ったあとは、井村屋社員のジャグリング、そして当社商品カップおしるこを召し上がっていただき交流しました。



お手玉作りの様子

#### （2016年度の活動計画について）

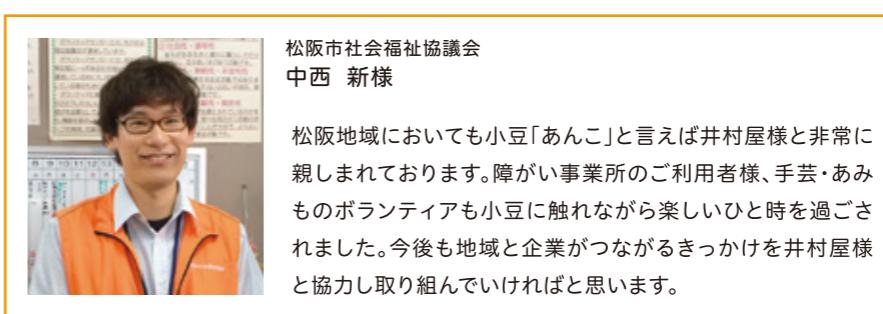
松阪社協と活動を振り返り、下記の取り組みを検討中です。

- ① 松阪社協管轄外の障害者就労支援施設B型を対象に、音楽ボランティア団体とあずきマラカスを使った交流会。
- ② 松阪市内高齢者施設を対象に、手芸あみもの倶楽部とお手玉作り交流会の開催。
- ③ 松阪社協と災害時の炊き出しを想定した防災クッキングの開催。

井村屋グループは、みえ長寿津連絡会の活躍、生きがいづくりの支援を今後も続けてまいります。同様に松阪社協と共に福祉施設の課題に目を向けて、解決に向けて微力ではございますが支援させていただきます。



井村屋スタッフによるジャグリングの披露



松阪市社会福祉協議会  
中西 新様

松阪地域においても小豆「あんこ」と言えば井村屋様と非常に親しまれています。障がい事業所のご利用者様、手芸・あみもののボランティアも小豆に触れながら楽しいひと時を過ごされました。今後も地域と企業がつながるきっかけを井村屋様と協力し取り組んでいければと思います。



おしるこでほっこり

さまざまな取り組みを通じ、社会とのつながりを深めています。

地域  
貢献

## お客様感謝デーと工場見学

毎年10月に地域住民の皆さまを対象とした「お客様感謝デー」を開催しており、2015年には20回目を迎えました。地域社会との関わりにおいて、良質なコミュニケーションの機会を持つことの重要性もますます高まっています。地域の皆さまへの感謝の気持ちをお伝えすることはもちろん、この機会にグループの活動を知っていただくことも重要と考えています。

前回は、一部のサンプリングコーナーで十分に応対できず混乱があった反省を踏まえ、「原点回帰“ONE”」をテーマに、「お客様感謝デー」を地域の皆さまとひとつになる機会と捉え、お祭り的な催しだけでなく、「あづき」を身近に感じていただける参加型のイベントなども組み入れました。

今後は、2014年よりお手玉作りの取り組みを開始した、みえ長寿津連絡会の皆さまもお招きし、世代を超えた笑顔の交流の機会も企画しております。これからもお客さまへの「感謝の気持ち」を忘れずに、さらに良い「お客様感謝デー」が開催できるよう、皆さんに愛される企業を目指してまいります。



工場見学の様子



お客様感謝デーの様子

また当社では、市内小学生の社会科見学の受け入れを継続的に実施し、一般団体を含めた来場者数は、年間5,000名を超えるました。海外からのお客さまをお迎えする機会も増え、「あづきをAZUKIに！」をスローガンとした、グローバルな情報発信にもつながっております。

地域  
貢献

## 伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」への参加

サミット開催に際し、日本を訪れる各国首脳関係者、報道関係者の皆さまを歓迎するために、県内全域で「おもてなし」をテーマとした美化活動が行われました。2月14日に行われたキックオフイベントにおいて、当グループからは振る舞いぜんざいの協賛を行い、イベントに参加された皆さんに心ばかりのおもてなしをさせていただきました。地域の皆さんや参加企業と心をひとつにして、海外からのお客さまをおもてなしする気持ちを共有できたことは大きな収穫となりました。

地域  
貢献文化  
伝承

## 防災クッキング

井村屋グループでは、シンボルマークの理念である「母と子」のもと、食品メーカーとして井村屋ならではの社会貢献活動の一環として、いつ発生してもおかしくない自然災害への防災に配慮した防災クッキング講習会を開催し、食と環境の大切さを学ぶ機会を提案いたしました。



### 〈防災クッキングとは〉

大災害が発生した中でもよりおいしいものが食べたいといった時に、備蓄品を活用し簡単な調理をして、食に対する満足感を少しでも得る方法のことをいいます。

### 〈防災クッキング講習会〉

- 日 時: 2015年10月30日(金)13:30~16:00
- 場 所: 橋北公民館食工房(アスト津5階)
- 講 師: かわごえ直子先生
- 受講者: 三重県食生活改善推進連絡協議会 24名、みえこどもの城 はぐくみ隊 2名、井村屋社員 8名 計34名
- 献 立: 彩りお野菜ニヨツキのコーンスープ、赤飯用あづきとひじきの蒸しパン、えいようかんビスケット、フードジャーでお粥

防災クッキング講習会には、三重県食生活改善推進連絡協議会、みえこどもの城はぐくみ隊にご参加いただき、講師には料理研究家のかわごえ直子先生をお招きして防災メニューレシピを調理しました。

かわごえ直子先生には、当社のえいようかんや缶詰の赤飯用あづき水煮などの長期保存可能で、かつ普段の生活にも使える商品を使用した防災メニューレシピを考案いただきました。今回防災をテーマにしていることから、中身だけでなく缶詰の空き缶などを有効活用してお皿代わりにするなど、万が一の時にも備えられる作り方を学びました。

この講習会を開催して、受講者から自分の地域の担当エリアでも実施したいといったお手紙もいただき、今後の活動につながる講習会になったと思います。

また、高茶屋本社内で開催されている「アイアイ塾」でも防災クッキング講座を設け、実際に防災メニューレシピを調理して社員の防災意識を高めました。

今後は、防災団体とも協働し、一般消費者への啓蒙を行うとともに、社内でも防災について啓蒙をしていきます。

サロン ド ルージュ  
かわごえ 直子様



### 昨年の防災クッキングを終えて

昨年10月に防災クッキングで講師をさせていただきました。

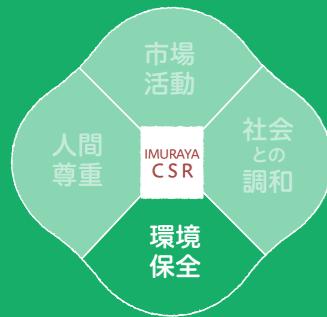
井村屋さんの商品、赤飯あづき缶、野菜パウダー、えいようかんを使用したメニュー3品をご紹介し、防災のお話を交え、講座を進行しました。

実際災害があった時に本当にこのメニューが役立つか、考えさせられました。被災地での調理にあたり、水、火元、器具、衛生面の基本的なことから栄養面も考慮していくかないとならないので、本当に奥深い難しい内容と実感しました。

3品の中ではえいようかんのビスケットサンドは一番お手軽で喜ばれ、ご提案やすいメニューかと思います。ビスケットの塩分が甘いえいようかんを引き立て食べやすい味にし、ピーナッツクリームで濃厚なコクのある味わいにし、栄養面もアップさせています。

甘いものは人を幸せな気持ちにし癒す力があると感じています。被災者の皆さんは身体と共に心も疲れているので、誰でも簡単に無理なくて済む、心も癒してくれるメニューをこれから考えていきたいと思っております。

※熊本地震で被災された皆様に心よりお見舞いを申し上げます。



# 食品企業だからこそ取り組む、 井村屋グループ各社の環境負荷低減活動 環境保全活動

井村屋グループでは環境基本方針に基づいて環境目標を設定しています。  
地球環境に配慮した取り組みを推進し、持続可能な社会への貢献を継続して行ってまいります。

## 環境目標達成度

井村屋G・井村屋・イムラ	2015年度目標	実行項目	2015年度実績	評価	2016年度目標	
	CO <sub>2</sub> 排出量の削減	前年度比 23%減 原単位:0.313トンCO <sub>2</sub> /生産t	①バイオマスボイラによる燃料転換 ②待機電力量の削減 ③排水処理設備の運転見直し	前年度比 17.8%減 原単位:0.334トンCO <sub>2</sub> /生産t	△	2015年度比 1.5%減 原単位:0.329トンCO <sub>2</sub> /生産t
井村屋シーザーニング	廃棄物削減	前年度の数値を維持する 原単位:1.73トンCO <sub>2</sub> /万トンキロ	①配送委託先と取り組みを強化 ②配送・保管効率の向上	前年度比 2.1%増 原単位:1.76トンCO <sub>2</sub> /万トンキロ	△	2015年度比 1%減 原単位:1.75トンCO <sub>2</sub> /万トンキロ
	排水汚泥以外の廃棄物 前年度比 33.4%減 ※2013年度比 20%減 原単位:39.1kg/生産t	①効率的な生産計画の策定 ②適正在庫の管理 ③各工程でのロス管理	前年度比 13.9%増 原単位:85.32kg/生産t	△	2015年度比 20%減 原単位:68.26kg/生産t	
	排水汚泥の廃棄物 前年度比 3.8%減 ※2012年度比 1%減 原単位:25.39kg/生産t	①排水処理設備の適正な管理 ②汚泥含水率の改善	前年度比 13.2%増加 原単位:29.97kg/生産t	△	2012年度比 1%減 原単位:25.39kg/生産t	
	リサイクル	リサイクル率 94%以上	①リサイクル業者の選定	リサイクル率 86.8%	△	リサイクル率 94%以上

井村屋シーザーニング	2015年度目標	実行項目	2015年度実績	評価	2016年度目標	
	エネルギーの節減	省エネ設備導入による電力量削減 23,030kWh/年 CO <sub>2</sub> 排出量原単位(排出量/製品出来高) 前年比1%削減	①2014年度以前に実施した大型設備投資の本格稼働(S-5(ドラゴン)、GP包装ライン) ②照明のLED化の推進 ③造粒工程のコンプレッサーの更新集約 ④ミックス工場のエアコン更新	省エネ設備の導入効果 削減電力量:90,909kWh/年 CO <sub>2</sub> 排出量原単位 前年比 5.3%削減	△	1)動燃費の売上スライド予算達成 2)CO <sub>2</sub> 排出量原単位 (排出量/製品出来高) 前年比 1%削減
	廃棄物削減	ロス・ミスによる廃棄物を2014年度比半減	①基本行動の徹底活動を展開 ②セキュリティーカメラを活用した事例教育 ③予防保全体制の強化による設備停止削減 ④夜間・休日の工場管理体制を強化	対象廃棄物発生量:8,942kg 前年比 103%増加	△	ロスミスによる廃棄物、3,300kg/年 以下を目指す
	環境整備活動の推進	環境整備活動を推進する	①事業所周辺の清掃活動を実施する ②地域社会の清掃活動へ参画する	①毎週の敷地内清掃と、年2回の緑地メンテナンスを実施 ②朝倉川清掃・植樹メンテナンス大会に参加	△	定常項目として定着したため、2016年度からは維持管理項目として取り組んでいく

※井村屋シーザーニングはEMS(環境マネジメントシステム)をQMS(品質マネジメントシステム)と絡めて業務品質の一部として運用しているため他の事業会社との表現方法が異なります。

## 環境基本方針

井村屋グループは、菓子/食品/まんとう/冷菓/チルド食品/調味料/レストランにおける飲食サービス等の生産・販売およびサービスを中心とする事業を通して社会に貢献します。基本方針は、事業の有する環境側面から、目的・目標を明確に定め、これを達成するための活動の継続的、かつ質的な向上を目指して、挑戦することをおきます。そして、これらの活動を定期的に見直し、その達成度を確認します。

### 1. 法律を守ります

環境に関する法律・規制・業界団体・地域等での取り決め・ルールを遵守することを内外に誓約します。さらに達成可能な範囲において自主規制値を定め、管理水平の向上を図ります。

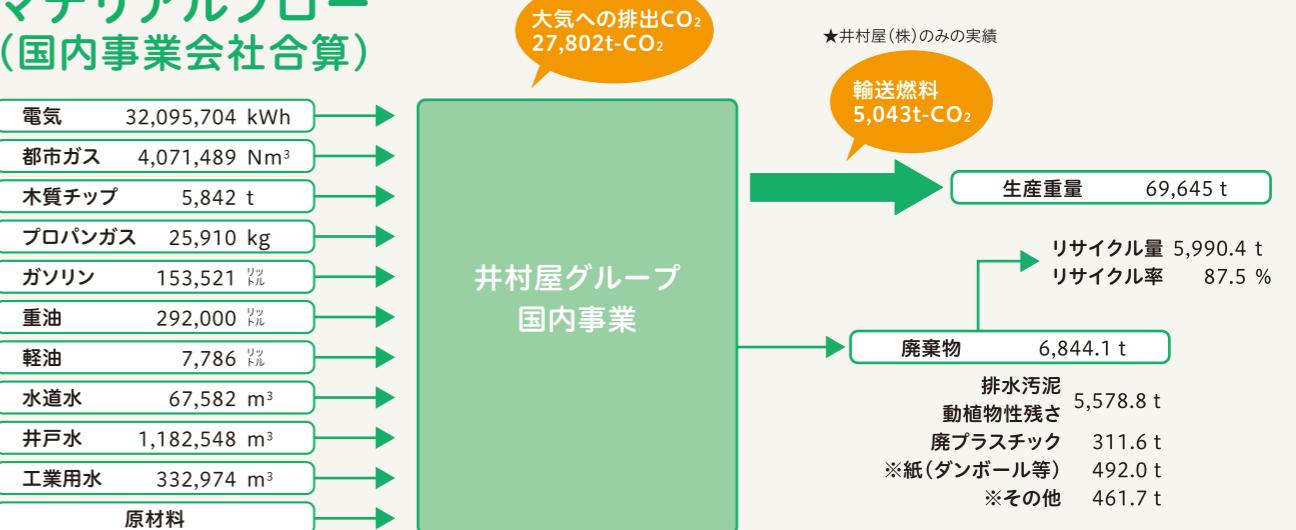
### 2. 3R(Reduce(発生抑制・減量化)・Reuse(再使用)・Recycle(再生利用))に取り組みます

"3Rへの取り組み"を合言葉として、省エネルギー・省資源・省廃棄物、そして再生・再使用にすべての部署で日常的に取り組み、継続します。また、製品デザインでは、エコデザイン(Eco-Design)、ユニバーサルデザイン(Universal-Design)を強く意識し、"人・環境へのやさしさ"をテーマとします。

日本フード	2015年度目標	実行項目	2015年度実績	評価	2016年度目標
	温暖化ガスの削減	温暖化ガスを2012年度値に対して、原単位で2%削減する。	①照明器具のLED化(蛍光灯150灯交換) ②部門別にLMM活動を行い、省エネ活動を実施。(冷却機械の温度設定の調整、空調機の休日停止、照明器具の間引き化と手元スイッチの取付等) ③設備更新時、省エネタイプの機種に変更(エアコン等)	エネルギー全体での温暖化ガスの削減は2012年度比5%減で達成した。排気ファン11機にインバーターの取付、スパウチの真空ポンプの更新時に省エネタイプへ変更、アイスクリームフリーザーの更新。LEDは150本交換した。	温化ガスを2015年度値に対して、原単位で1%削減する。 ①照明器具のLED化(目標150本) ②各部門ごとにLMM活動を行う ③冷却設備の更新(冷凍庫)
	水の適正管理	水の使用量を2012年度値に対して、原単位で2%削減する。 ①LMM活動の継続を行う	LMM活動により、節水活動を行う。	水全体では対生産重量で2012年度比1.2%増、モナカアイスの増産により、井戸水の使用量が増加した。	市水の使用量を2015年度値に対して、原単位で5%、井戸水4%削減する。排水の適正管理を行う。
	廃棄物の適正処理と削減	廃棄物(汚泥・廃プラ)の処理量を2012年度から2014年度値の平均値に対して、原単位で2%削減する。 ①LMM活動の継続を行う ②有価の廃プラ回収量を増やす	廃プラスチックの細分別による、有価廃プラスチック化を実施。	汚泥・動植物性残さ処理量は17%増、廃プラスチックは2%増。汚泥・動植物性残さの増加は新規商品(モナカアイス)生産時の調整時のロスが多く発生したため。有価の廃プラスチック処理量は7,900kgと約倍増した。	廃棄物(汚泥・廃プラ)の処理量を2015年度に対して、原単位で1%削減する。廃プラスチックも原単位で2015年比で1%削減する。
	工場敷地内外の環境整備	事業所敷地内外の環境美化を推進する。地域の環境活動に参加する。 ①月一回クリーンデーを実施 ②梅田川クリーン作戦に参加	工場内外の不要物を整理し、廃棄する。	①月一回クリーンデーを実施。 ②梅田川クリーン作戦は悪天候のため中止、参加できず。	事業所敷地内外の環境美化を推進する。地域の環境活動に参加する。 ①月一回クリーンデーを実施 ②梅田川クリーン作戦に参加

※LMM:「ロス・ミス・ムダ」の略

## マテリアルフロー (国内事業会社合算)



## 井村屋グループ全体の環境評価

低炭素社会実現に向けたCO<sub>2</sub>削減におきましては井村屋(株)本社工場に導入しましたバイオマスボイラに一定の効果があり国内事業全体として約8%の削減効果がありました。安定した稼働が求められると同時にさらなるCO<sub>2</sub>削減に向け、工場内の待機電力削減やLED化の推進など省エネへの取り組みを加速してまいります。

また廃棄物削減への早急な取り組みも要します。サプライチェーン全体での抑制への取り組みを行っており流通工程や調達工程では廃棄物の発生を削減しておりますが、生産段階での廃棄、特に主力の肉まん・あんまん工場で増加が顕著です。引き続き各工場で工程の見直し、ロス・ミス・ムダ発生を無くしていくことで生産性向上に努めてまいります。

また私どもはあずきや砂糖などの原料や包装資材などを自然界から得ております。生物多様性の保全の観点からも、企業としての認識を強め、自然界にどのような影響があり、どのように取り組めるのかを考える場を持つ必要性を感じております。

まずは生物多様性についてグループ共通の課題として意識を持つところからスタートしたいと存じます。

### 3. 技術力を高めます

菓子/食品/まんとう/冷菓/チルド食品/調味料/レストランにおける飲食サービス等の安全でおいしい製品と、そのより良い生産プロセスを追求します。原材料の保全と最適利用、工程副生品の再利用、環境負荷を低減する工程の改善など、汚染の予防とともに絶えず技術力の向上に努めます。

### 4. 地域社会との調和を図ります

美しく豊かな立地環境の保全と、地域社会との協調を常に念頭において、地域の環境活動に参画します。

### 5. 環境の大切さを自覚します

従業員のすべてが環境の大切さを自覚し、一市民としても環境保全に取り組みます。井村屋グループは、全従業員の環境への意識向上と保全への取り組みのための継続的教育訓練、広報活動を支援します。

### 6. コミュニケーションを大切にします

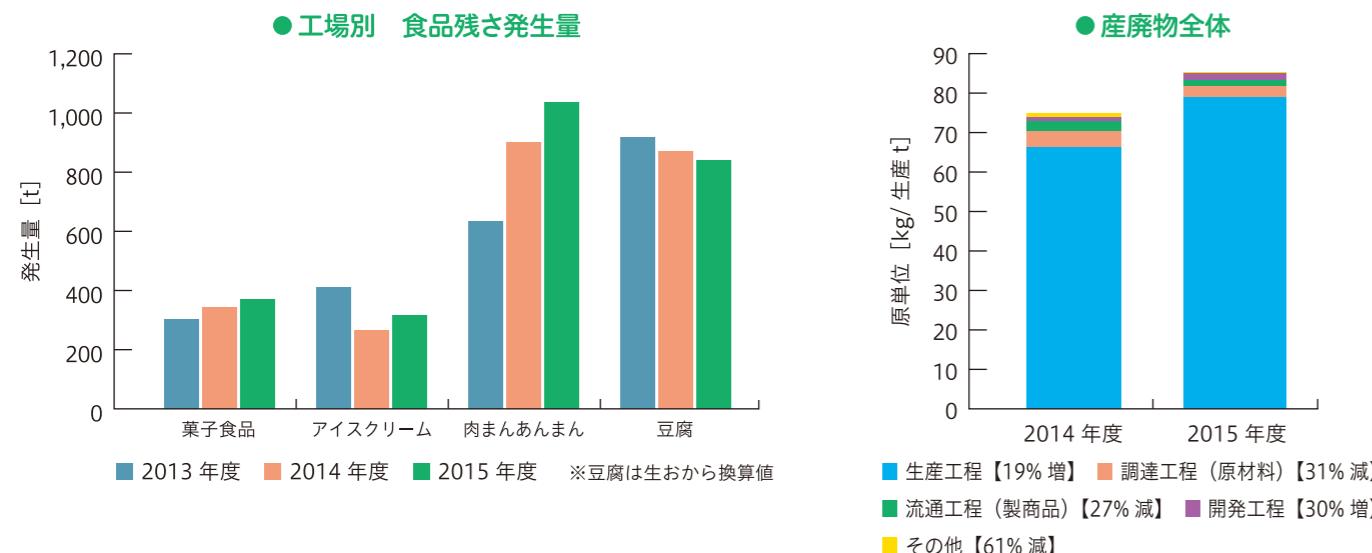
環境方針および目的・目標を公開します。この目的を達成する過程における開発技術、成果等も必要に応じて公開し、井村屋グループの環境保全の成果を広く社会共通の財産とします。



## 廃棄物削減目標の評価について

産業廃棄物業者が不正に廃棄物処理を行った問題で「廃棄物」に脚光が当りました。当社におきましても環境目標の中で食品残さを主とする廃棄物削減目標を掲げて各工場単位で取り組んでいます。

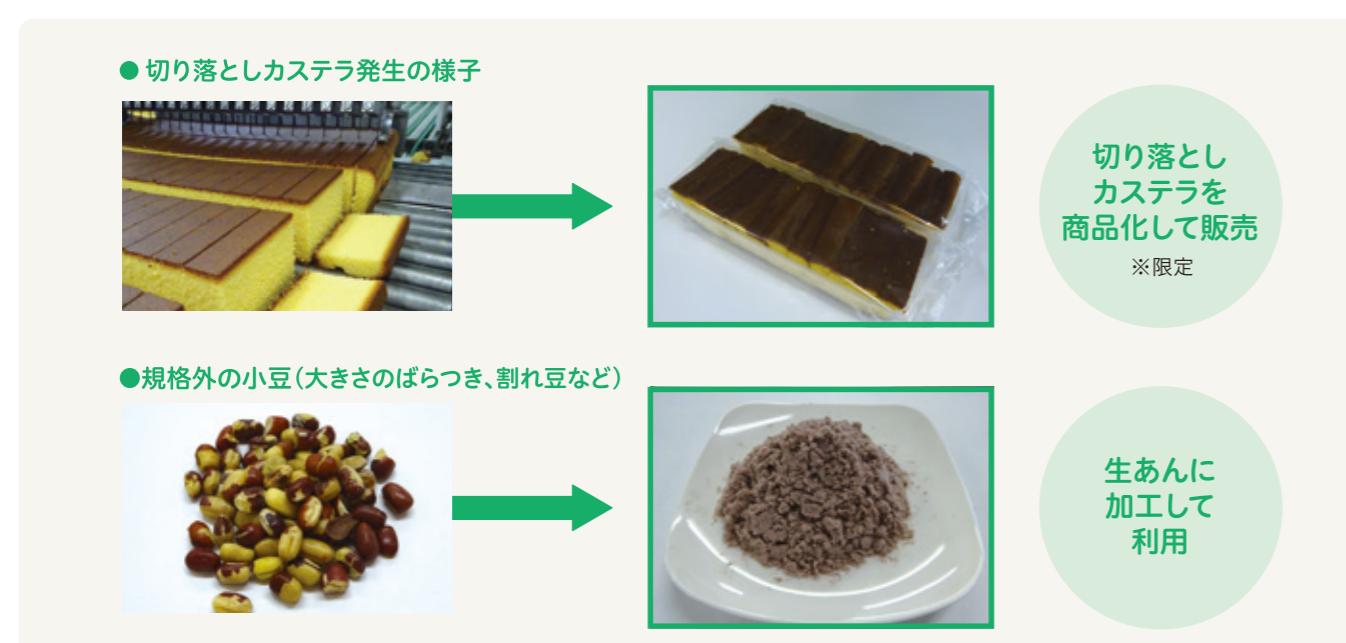
2015年度におきましては前年度比113.9%増加しております。工場別に分析すると肉まん・あんまん工場の発生要因が増えつつあります。プレミアム商品の製造ラインにおいて発酵生地と具材との包あん工程で生まれる生地の廃棄が大幅に増加。2016年度においては開発、生産部門において発生抑制についても検討をしておりますが、現段階において抜本的な削減に至っておりません。継続した課題と認識し、生産工程、調達工程、流通工程等、すべての工程での削減を行い目標達成に向けて活動してまいります。



### 廃棄物削減取り組みの事例

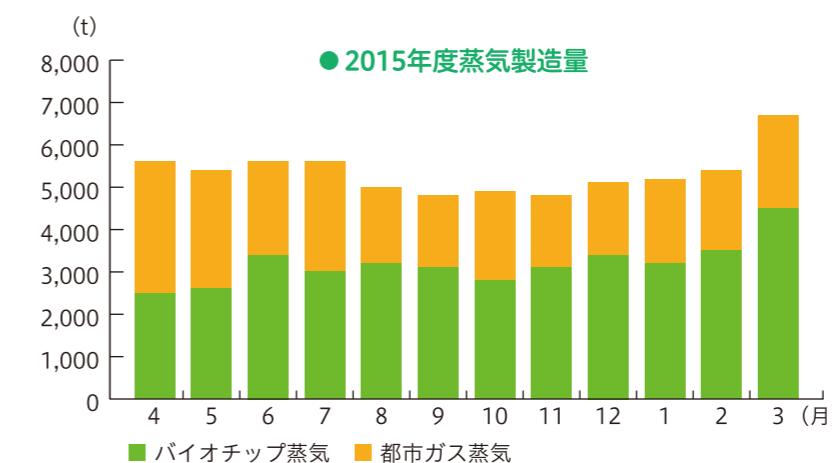
井村屋では、カステラの製造過程で発生する耳を「切り落としカステラ」の名前で商品化し、食品ロスの削減に取り組んでいます。2015年度の実績で約19t分の切り落としカステラの販売を行い、廃棄物の削減につなげることができました。また、小豆選別過程で発生する大きさのばらつき、割れ豆などの規格外小豆の一部（約68t）は粉碎し、生あんの原料として利用しています。このように、生産において発生する副産物や規格外品を有効に活用し、廃棄物の発生抑制に取り組んでいます。

その他、製造過程でやむを得ず発生した食品廃棄物については、そのほとんどを飼料原料として再生利用しており、できる限り環境に配慮した形で処理を行っています。



## バイオマスボイラ稼働の評価について

2015年1月から高茶屋本社工場にてバイオマスボイラが稼働して1年が過ぎました。年間5,842tの木質チップ燃料を使用して38,115tの蒸気を作り出しました。



### ①ボイラ設備でのCO<sub>2</sub>排出量の削減

バイオマスボイラの稼働により都市ガス炊きボイラの燃焼時間を抑制しCO<sub>2</sub>排出量を約3,600t/年削減しました。

### ②燃料コストの削減

都市ガス使用と比べ約1億1,200万円/年の削減効果がありました。

### ③エネルギーの安定化

エネルギーのベース需要をバイオマスボイラで対応。エネルギーのピーク需要は、都市ガスボイラとの併用で対応し機器特性を生かした運転で安定化を図りました。



### 今後の課題

品質が統一され安定している化石燃料の都市ガス炊きボイラと異なり、固体燃料のバイオマスボイラ燃料は同一の種類でも形状や水分がさまざままで品質にばらつきがあります。そのため発熱量や灰分の含有量、煙道の掃除頻度、燃料供給装置など機械的なトラブルの原因となって蒸気発生量が減少したり不安定となりました。この1年間に蓄積された燃料の性状や運転条件のデータ、知識と経験を生かして稼働時間の確保と保守・点検費の削減を行い、今年度はCO<sub>2</sub>排出量4,370t/年削減を目指します。



## 冷凍倉庫「アイアイタワー」の新設

高茶屋本社工場にて、従来の冷凍倉庫の老朽化に伴い、新しい冷凍倉庫「アイアイタワー」を建設し、2016年5月6日に竣工いたしました。

収容能力は従来の3倍となる約2,000パレットを誇り、パレットの積載及び冷凍庫内の運搬は自動システムを導入し、より無駄のない効率的な保管・物流システムを構築しました。

また、冷媒には自然冷媒のアンモニア／二酸化炭素を採用、外壁や屋根には高い断熱性能を持たせ、合わせて館内照明は全てLEDを使用するなど、環境負荷の低減にも考慮しています。このように冷凍倉庫は、環境にやさしく人にもやさしい安全・安心な設備へと進化しています。また施設内に社員食堂「アイアイラウンジ」を併設。従業員の福利厚生施設として健康面・精神面で寄与してまいります。



アイアイタワー全景



アイアイタワー

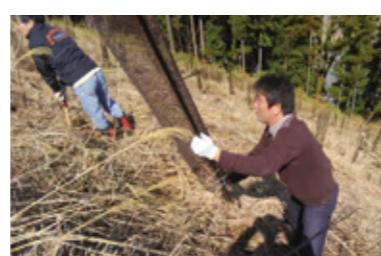


スタッフカーキー

## 環境保全に向けた活動事例

### 地域の植樹活動への参加について

2016年3月26日に三重県津市美杉町にある森林にて、三重県の新雲出川物語推進委員会主催の植樹活動が行われました。「豊かな森をつくり、川や海に恵みを与え、伊勢湾の環境を守ろう」というコンセプトに賛同し、井村屋グループでは環境委員会メンバーを中心に6名が参加しました。当日は他の企業の方々も集まり、この日は合計50本の植樹を行いました。(井村屋グループでは12本を植樹)今後も継続して地域貢献につながる取り組みを行っていきます。



植樹活動の様子

### 社員の声

#### 積極的な社会貢献活動を継続していく

今回、初めて植樹活動に参加しました。作業としては穴を掘って苗木を植えるという簡単作業でしたが、実際に使うと想像以上に重労働で、森林を再生することがいかに大変なことか身をもって体験しました。

今回の植樹を通じて、まだまだ微量ではありますが、少しでも地域の森林再生に貢献できたのではないかと感じています。今後も自然再生に向けた活動に積極的に参加していきたいと思います。

井村屋株式会社  
管理部 主任 伊藤 洋晃



## 事業会社の取り組み

### 井村屋シーズニング株式会社

#### (2015年度 取り組み事例)

##### ① 照明LED化

年次計画で順次LED化を進めており、2015年度はブレンド工場、第二事務所、屋外水銀灯をLED化しました。(LED化率:24.8%)

LED化に伴う当年度の削減効果は22,242kWhで、動燃費節減につながっています。



① LED・ブレンド工場

##### ② コンプレッサー更新(37kWタイプ)

FLO<sup>※1</sup>工場用22kWコンプレッサーと、MGD<sup>※2</sup>工場用15kWコンプレッサーを、省エネタイプの37kWコンプレッサー1台に集約して更新しました。

コンプレッサーの更新、集約による当年度の削減効果は32,121kWhで、動燃費節減につながっています。



② コンプレッサー

##### ③ 工場隣接原料仕掛品保管庫整備

第二製造室(造粒工場、小袋包装工場)に隣接する原料仕掛品保管庫を整備しました。倉庫から製造現場へのフォークリフトでの横持ち移動が削減され、構内物流の合理化を図ることでエネルギー消費削減(約700kWh/年)と、現場担当者間の連絡時間や原料を探す時間の削減(約125時間/年)を行い、生産性の向上を図りました。



③ 工場隣接原料仕掛品保管庫

##### ④ FLOでのトート bin 充填

FLOでトート bin 充填を可能とする運用体制をつくり、中間仕掛け品の包材削減(約6,000枚/年)と、FLOでの充填作業時間の削減(約55時間/年)、ブレンド包装での仕込み作業時間の削減(約34時間/年)を行い、生産性の向上を図りました。

<sup>※1</sup> FLO… 流動層造粒・コーティング装置(フローコーター)

<sup>※2</sup> MGD… 連続流動層造粒乾燥機(ミックスグライド)

### 日本フード株式会社

#### (2015年度 取り組み事例)

##### ① 冷凍機付アイスクリームフリーザー

アイス工場のアイスクリームフリーザー更新時に冷凍機付を購入し、冷却到達時間が早くなり、電力の節減と製品ロスも削減できました。(電力量は約15万円減)



テトラ製アイスクリームフリーザー

##### ② 排気ファンをインバーター制御

アイス館炊室の排気ファン11機にインバーターを取り付け、制御を行い、1年間で約45万円の電力量を削減しました。



館炊室排気ファン(11機)



インバーター制御盤

## 特 集

# 伊勢志摩 サミット応援事業

井村屋グループ本社が所在する三重県で  
主要7カ国首脳会議(伊勢志摩サミット)が開催  
されることを受けて、地元企業として伊勢志摩サミットの  
成功に向けて、多様な経営資源を活かして支援を行いました。

日本  
文化の  
発信

## あずきを AZUKIに！

日本の風土と縁が深いあずきは、邪気を払う食べ物であると考えられていたため、おめでたい日の行事食にも必ず登場しました。また、あずきには食物繊維をはじめ、ビタミンB1、B2など豊富な栄養が含まれています。  
日本のあずき文化を伝えるために、「あずきをAZUKIに！」をキヤッチコピーに、事前イベントや伊勢志摩サミット国際メディアセンターで、あずきを使った商品の提供を行い、日本の食文化や和菓子の魅力を世界に向けて発信しました。



### ● 2015年2月14日 開催100日前イベント

My Heart, My Summit. 伊勢志摩サミット「おもてなし大作戦」にてぜんざいの振る舞い。

### ● 伊勢志摩サミット開催中

国内外のメディア関係者が集まり、伊勢志摩サミットの情報を世界に発信する国際メディアセンター内のレストラン及びケータリングコーナーにて「あずきをAZUKIに！」のメッセージのもと商品を提供しました。初めて目にする和菓子に驚きつつも、試食後は多くの方が好感触を持たれました。この経験を活かし、今後も海外市場へ日本のあずき文化の発信をしてまいります。

#### 提供商品

- パウチゆであずき400g
- 冷やし伊勢茶ぜんざい
- ゴールドあずきバー／ゴールドミルク金時バー／ゴールド宇治金時バー
- やわもちアイス(つぶあんミルク最中／抹茶つぶあん最中)
- クリームチーズアイス
- チョコレートようかん(練／抹茶)
- あんこたっぷり和菓子のどら焼き
- 宇治抹茶カステラ
- 美し豆腐



伊勢志摩  
サミット  
応援商品

## 食を通じて、 日本や三重県の魅力を世界に発信

### ● 伊勢宮川のおいしい水まんじゅう



● 伊勢茶あずき最中



● 伊勢志摩招福ようかん



● 冷やし伊勢茶ぜんざい

● 伊勢宮川のおいしい水のジュレ

伊勢志摩サミット応援商品として、伊勢茶を使ったアイスやぜんざい、宮川の水や伊勢茶、東紀州の温州ミカンを利用した水まんじゅうとジュレなど三重県が誇る食材を使用した商品を開発しました。

※伊勢宮川の水を使用した商品については、美しい宮川を守り、日本一の清流を目指して活動する団体に売上の一部を寄付しています。

### 伊勢宮川への貢献について

伊勢宮川は、三重県多気郡日出ヶ岳にその源を発し、伊勢湾に注ぐ川です。全国一級河川水質調査では、最も水質の良好な河川の一つとして選ばれています。この地元のおいしい水を使った商品が、「伊勢宮川ギフトシリーズ」です。

宮川流域の豊かな自然・歴史・文化の保全・再生活動の活性化を図るため、井村屋グループではこのギフトシリーズの売上の一部を「宮川流域ルネッサンス協議会」に寄付することとしました。今後も井村屋商品を通じて、地元貢献、社会貢献につなげていきます。



伊勢宮川

### 社員の声

井村屋株式会社  
開発部 課長代理 川西 加恵

### 商品を通じて社会貢献につなげたい

この度、地元企業が地元の環境保全に貢献できる機会を与えていただきました。「伊勢宮川ギフトシリーズ」は、地元のおいしい水を使ったデザートを全国の皆さんに味わっていただきたいという想いで開発しました。同時に、三重の豊かな自然を多くの方々に知ってもらえる良い機会とも考えています。こちらの商品は今年だけで終わらず、毎年定番商品として続けて社会貢献していきたいと思います。また今後も、井村屋商品を通じた地元貢献、社会貢献に積極的に取り組んでいきます。



### 三重県民会議への協賛

- 厳しい業務に従事される多くの警備関係の方の「携行食」として、スポーツようかんプラス5万本を寄贈。
- 県民会議に寄付金を贈呈。



グループ間の連携を強めてより一層のシナジー効果を発揮し、企業価値を高める重要なステージへ

## 中期3ヵ年計画【2015年度～2017年度】 One imuraya 2017

「特色経営をさらに磨き、着実な成長によって、社会に貢献するグループ企業となる」を基本方針とする中期3ヵ年計画One imuraya2017の初年度にあたり、2017年度の目標達成を確実にするための重要な一年として事業活動を展開しました。

### 売上高と経常利益の推移と目標値



販売戦略として、お客様へ新しい付加価値を提供し続ける「NEW」「NEXT」の2つのNをキーワードに特色のある商品提案と積極的な活動を行い、ゴールドシリーズなど付加価値の高い商品が好評をいただくとともに、冬場も冷菓事業が好調に推移しました。またアメリカではアイス事業の売上が計画に沿って拡大するなど海外事業の売上も貢献し、過去最高の売上高となりました。そしてコスト面では、生産性向上活動による生産効率の向上やバイオマスボイラの導入などにより、動燃費を中心に製造コストが減少、またSCMの効果により在庫圧縮と保管料の抑制ができました。2016年5月には新しい冷凍倉庫の竣工式を予定通り迎え、設備投資の効果を発揮し、物流費用とエネルギーコストの更なる削減が期待されます。

激しく変化する厳しい経営環境のもと、当グループは中期3ヵ年計画One imuraya2017の2年目を迎えます。最終年度である2017年度は、創業120年、会社設立70周年、ホールディングス制移行7年目の大きな節目となる年度であり、その経営目標達成に向け、2016年度は確かに周到な「準備の年」と位置付け、経営基盤をさらに盤石にしていく重要な一年として事業活動を展開していくため、次の3つを活動目標として、攻守バランスのとれた経営を実践し、企業価値向上を目指します。

- ① 経営品質の向上(商品品質・管理品質・顧客対応品質・社会対応品質)
- ② 無駄の排除(ゼロベース経費・業務の効率化による生産性向上)
- ③ 2Nの創造(NEWとNEXTの創造に挑戦し、新魅力につなげる)

そして、次代への継承を促進し、特色経営の強化によりダイナミックな革新を推進するため、経営体制を変更いたしました。新しい経営体制のもと、これまで以上にグループ全体がひとつになり、「つながりと革新による着実な成長」を実現し、企業価値を高めてまいります。

国内4社、海外4社のグループ各社が協働し、お客様の「おいしい！」の笑顔をつくる」を実現しています。

### 井村屋グループ(持株会社)概要

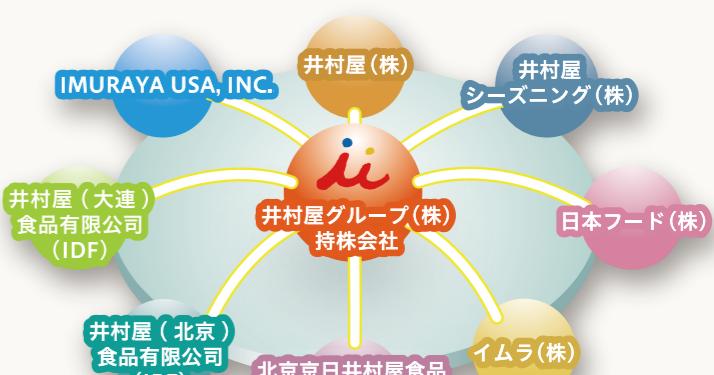
- 創業／明治29年(1896年)
- 設立／昭和22年(1947年)4月
- 資本金／22億5,390万円
- 本社／三重県津市高茶屋七丁目1番1号
- グループ事業会社数／国内4社 海外4社
- グループ従業員数／961名(2016年4月1日現在)
- 事業概要／事業会社の経営管理

事業会社に対するコンサルティング  
不動産の賃貸・管理

※「グループ事業会社数」「グループ従業員数」以外は井村屋  
グループ株式会社の概要

### 井村屋グループの持株会社制(HUB型経営)

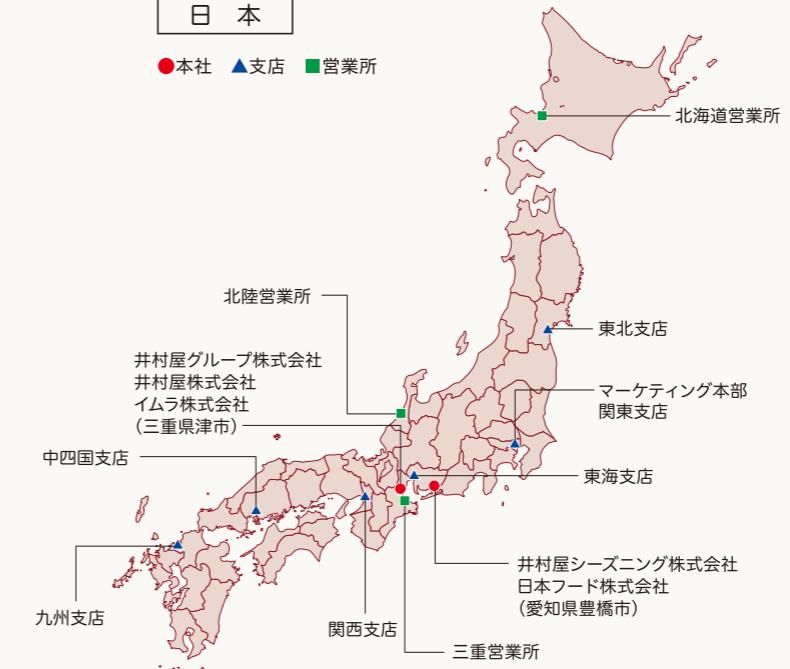
各事業会社がサークル状に位置し、相互に連結、協働しながらグループ力を最大化し、企業価値を高めていく「HUB(ハブ)型」を特色としています。



### 井村屋グループの活動拠点

#### 日本

●本社 ▲支店 ■営業所



#### 北米

IMURAYA USA, INC.  
(米国カリフォルニア州アーバイン市)



#### 中国

北京京日井村屋食品有限公司 (JIF)  
井村屋(北京)食品有限公司 (IBF)  
(中国北京市)



井村屋(大連)食品有限公司 (IDF)

## 第三者意見



幸せ経済社会研究所所長、環境ジャーナリスト、翻訳家  
有限会社イーズ代表  
有限会社チェンジ・エージェント会長  
NGOジャパン・フォー・サステナビリティ(JFS)代表

枝廣 淳子 えだひろ・じゅんこ

東京大学大学院教育心理学専攻修士課程修了。「不都合な真実」(アル・ゴア元副大統領)の翻訳をはじめ、環境問題に関する講演、執筆、企業コンサルティング、異業種勉強会等の活動を通じて「伝えること」でうねりを広げつつ、変化を創り、広げるしくみづくりを研究。「つながり」と「対話」で、しなやかに強く、幸せな未来の共創をめざす。

持続可能性を土台に、本当の幸せを経済や社会との関わりで学び、考え、対話する研究会やセミナーを開催するほか、問題のつながりを見出し、作り出し、新しい価値を共創するウェブサイト「イーズ未来共創フォーラム」(<http://www.es-inc.jp/>)を主宰する。

主な著訳書に『私たちの選択』、『地球のなおし方』、『わが家のエネルギー自給作戦』、『GDP追求型成長から幸せ創造へ』など多数。

CSR憲章の4つの側面から、井村屋グループのCSRに対する考え方、実際の取り組みや実績、今後の方針などをわかりやすく紹介する親しみやすいレポートとなっています。私が第三者意見を書かせていただくようになっての4年間を見ても、自分たちのグループの社会的責任をしっかりとらえ、具体的な取り組みを進め、PDCAが効果的に回る、実効性のあるCSRになってきたこと、素晴らしいと思います。特に今年のレポートでは、それぞれの領域や個別の取り組みでの「活動の評価」、および「今後の取り組み」「これからの課題」をわかりやすく伝えていることは、PDCAの観点から大きな進展です。

実際の取り組みについても、高齢化社会の対応としての高カロリー豆腐の開発など、CSV的な取り組みの展開も楽しみですし、昨年指摘した廃棄物について、削減の取り組みが進んでおり、データを含め、詳細な報告を評価します。社会面でも、労働災害、休暇取得、女性の活躍支援(育児休暇取得後の復職率100%は素晴らしい)、お手本になるような実績を上げています(改善や進捗の理由の分析の報告もあるとなお良しです)。

今後のさらなる改善に向けて、何点か述べます。

「環境保全活動」の目標達成度の評価が思わないものが多くありますが、その理由の分析や今後の対策について報告してください。また、国内事業会社合算のマテリアルフローはグループの全体像の把握に有用ですが、さらに、年次比較を出して、グループ全体として改善しているのか悪化しているのか、その理由は何か、グループ全体としての対策や方向性をどのように考えているのかを報告してください。

環境面で、食品会社として「取り上げるべき」と社会が考える側面がいくつか漏れているように思います。昨年の第三者意見に対して「生物多様性は、環境問題を考える上で非常に大切なテーマであると認識しております」と答えていたように、自社の生物多様性への依存と影響についての認識、原料調達や水についても、しっかり取り上げてください。

社会面では、「人間尊重」コーナーが日本の女性・高齢者だけを対象にしているように見えててしまうので、障がい者やLGBTなどのマイノリティに対して、また、海外の支社や原材料の輸入国の人々についての考え方や取り組み、さまざまな制度の基盤となる人権に関する基本方針や教育についても進めていくください。

地域に根ざす企業としての地域に対する取り組みとともに、環境面での取り組みもしっかり進めており、さらに社会面での展開も勢いがついてきました。今後のさらなる進化と深化に大いに期待しています。

### 第三者意見を受けて

枝廣先生には、昨年に引き続き本レポートに対してのご助言をいただき、誠に有難うございました。

今後のさらなる改善に向けて、ご指摘いただきました事項をグループ全体で共有し、企業活動に活かしてまいります。特に、結果に対する理由の分析とその対策についての考察がまだ不足していることを再認識いたしました。その点を充分に理解し、次のアクションにつなげることで継続的なスパイラルアップを目指してまいります。

食品会社として取り上げるべき課題も多く残されております。一つひとつの課題に誠実に向き合ってまいります。これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

井村屋グループ株式会社 経営戦略部

さらなるCSR活動の推進に向け、  
本書をご一読いただいたご意見・ご感想を  
添付のアンケートにお寄せください。

井村屋グループ株式会社 経営戦略部

《お問い合わせ先》

**井村屋グループ株式会社 経営戦略部**

〒514-8530 三重県津市高茶屋七丁目1番1号 TEL.059-234-2146 FAX.059-234-2130  
ホームページアドレス <http://www.imuraya-group.com/>



この印刷物は環境に配慮した  
「植物油インク」で  
印刷されています。



この印刷物は  
有害な溶剤は出ない  
「水なし方式」で  
印刷されています。



見やすく読み易えにくい  
ユニバーサルデザインフォントを  
採用しています。